

時計台の守り人

昨年10月に時計台の時計が止まっていたことをご存知ですか？しかし、同日中に時計は復旧し、もと通り正確な時間を刻むようになりました。素早い復旧の裏には、時計台専属の整備士さんの活躍があったのです。今月は「時計台に魅入られた男」を自称する、整備士の杉谷鉄夫さんにお話を伺いました。(夷)

—まずどうして時計台に関わるようになったか教えてください。

学生紛争の時に時計台が壊されて、その修理にアシスタントとして参加したのが僕と時計台の最初の縁です。その後、電源変圧器という、電線からの電圧を適切に変換する機械が焼けて損傷したときに、何とかできないかと僕に話が回ってきました。そこで知り合いの町工場の方に頼んで作ってもらい、電源変圧器を直しました。

それ以来、学校から相談がくるようになりました。時計台の整備に深く関わるようになったきっかけは、電源変圧器の損傷を修理したことですね。最初はただの仕事として整備をしていましたが、いつの間にか愛着がわきました。どうも僕は時計台に魅入られたみたいです。時計台ができてから来年で90年。僕が整備

に関わるのは来年で47年。もう時計台の歴史の半分以上も関わっています。

僕が整備を始めたとき、学生紛争のせいで時計台の精度はめちゃくちゃだったんです。それを少しずつ直していくうちに、日本でも指折りに入るくらい精度が高かったことがわかりました。そうすると、ただ直すだけじゃ話にならん、少しずつ昔の精度に近づけなきゃいけないと思っただけです。今では年差1秒以内、視差1分以内になっています。

—昔の状態に近づくよう修理をしたと。

晩になったら文字盤と針に灯りがつくでしょ？あの色は特注のLEDを使って、大正14年当時の色を完全に再現しています。LEDの開発もメーカーの人の善意によるところが大きかったですね。あの時計台はまさに匠の力の結晶です。

—昨年10月に時計が止まりましたね。

止まりましたね。ここ数年は毎年止まっています。1時間ごとに補正がかかるようにしてますから、一度止まると1時間単位でずれが生じるんです。ペンシルモーターという、親時計から時間の信号を伝える部品があるんですが、犯人はそれの劣化による故障です。施設部の方から連絡をもらって、すぐにアシスタントに来てもらって整備しました。ペンシルモーターのスペアがあったから何とかできました。

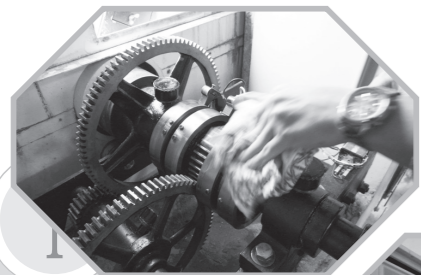
ここ数年、そのペンシルモーターの寿命が徐々に短くなってきたんです。最初は10年もったのに5年、3年、2年と短くなって、最近では1年しかもたない。モーターの中の歯車の材質が変わって耐久性が低くなったのが原因かと思います。なんとかして耐久性の高いものに変えたい。それが目下のところの悩みですね。

PROFILE

1930年12月10日生まれ。立命館大学理工学部卒業。1954年に有限会社杉谷ムセン設立。家電から無線機器、そして京大の時計台の整備まで広く扱っている。趣味は大学在学中から嗜んでいるカメラ。

整備作業の流れ

10:30 アシスタントと合流し、整備作業開始	10:30~12:00 指針駆動部、照明、親時計、電源の順に点検し、正午に鐘が正常に12回鳴ることを確認して整備終了
----------------------------	---



▲時計の針を動かす歯車を点検



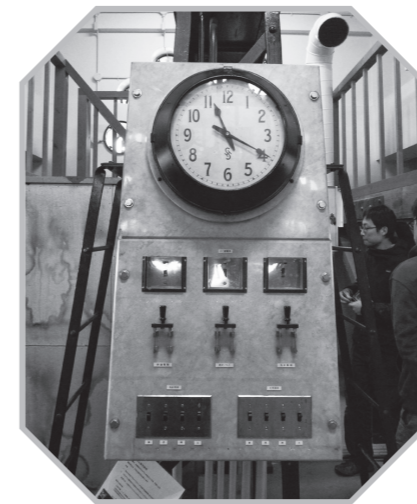
▲アシスタントさんに教育もする



▲時計の正確さの確認も忘れない



▲時間を伝えるモーターにオイルをさす



はみだし
すてーじ

2014年も積極的に消極的であれ
⇒2014年も閉鎖的に開放的でありたい。

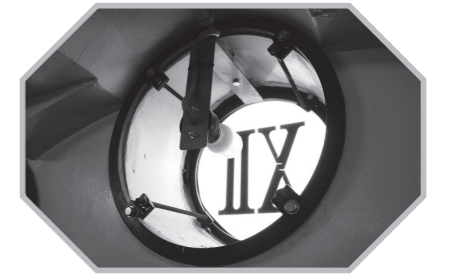


—ありがとうございました

—日々時計台を見上げている我々京大生にひとことお願いします！

大学時代は人生を生きていくためのデータ収集に入るんだと思いなさいよ。高校時代みたいに、大学が人生の目標って思っちゃいけない。昔のように、学校を卒業すれば立派な社会人になれるっていう考え方は通用しないと思います。

今はまだ広い選択肢がありますが、選択肢が残されているのは就活が最後かもしれないですね。その幅広い選択肢の中から自分の進路を決めるためには、たくさんデータを集めなきゃいけない。学校にただいるだけではデータは集まらないから自分で動かさなければならないよ。それが今の京大生さんたちに贈る言葉ですね。



(医・1 大腿四頭筋)
(ただの人見知り；編)